

第4回紀の川市立学校適性規模適正配置検討委員会会議録

日時：令和3年8月19日（木）

19：00～20：30

場所：紀の川市役所5階 501会議室

◎開会

○事務局 定刻となりました。皆さん、こんばんは。

昼間お疲れのところ、第4回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会にご出席いただき誠にありがとうございます。

今年度初めての検討委員会となります。

始めに、学校長代表でありました佐々木委員につきましては本年3月末で定年退職となりましたので、後任といたしまして宮本義友様が委員として出席いただいております。

○宮本委員 よろしく願いいたします。

○事務局 また、事務局の山野につきましても本年3月末で定年退職となり、後任に部長の乾が出席しております。

○事務局 乾と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 また、アンケート関係を業務委託しております株式会社サーベイリサーチセンター様にもご出席していただいております。後程、調査結果等について説明をいただきます。

○株式会社サーベイリサーチセンター 株式会社サーベイリサーチセンターと申します。よろしくお願いいたします。

○事務局 続きまして、教育委員会の附属機関の組織及び運営に関する基準を定める規則第4条第2項の規定により、過半数の委員の出席をいただいておりますので、この会が成立していることをご報告いたします。

それでは、第4回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会を開催いたします。

まず、お手元の資料のご確認をお願いします。

本日使用いたします資料は、1枚ものの検討委員会次第、続いて資料1、第3回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会会議録、次に資料2、学校のあり方に関するアンケート調査結果について、保護者用、市民用。

以上となります。

皆様ご確認のほうよろしいですか。

それでは、次第に沿って進めたいと思います。

◎会長あいさつ

○事務局　始めに、会長から挨拶のほうよろしく願いいたします。

○会長　改めまして皆さんこんばんは。

とんでもない天気のところ不安ですけれどもご参集くださいまして大変ありがとうございました。

この会も 4 回目になりまして、皆様方の意見を拝聴いたしまして、これから新たな方向に進んでいこうかと思っておりますので、よろしくご協力申し上げます。

ちょっと話が飛ぶんですけれども、私島財団のほうでやってる島ものづくり塾っていうものがありまして、そちらのお手伝いしております。そこで全県から子どもたちを集めて、ここでいう発明クラブのようなものをやるわけですけれども、低学年 1 年生から 3 年生の募集 30 名に対して 1,200 人を超える応募者がありました。それから、高学年につきましても 30 人に対して 600 人近い応募者があったんですね。

これは全く関係のない話なんですけども、そこで島財団の事務局が和歌山県内の市町村の教育委員会を回って、そしてその対応によってやはり熱心な市町村からは多く出てくるという傾向がありました。特に和歌山市で開きますから和歌山市が多いのは当然なんですけれども、やはり岩出市、それから紀の川市が他の市町を抜いて断トツに応募者があったんですね。残念ながら比例配分なんで採択された子は数人しかいなかったんですけれども。そのようなことで、やはり学校の対応、それから教育委員会の対応ということで紀の川市が非常に熱心であるということ、島財団をお手伝いして実感しております。

後、この紀の川市の教育が更に発展するように皆様方のご協力をお願いしたいと思います。

ちょっと話長くなりましたけれども、今日もよろしくお願い申し上げます。

○事務局　ありがとうございました。

ここからは仁藤会長により進行のほうよろしく願いいたします。

◎第 3 回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会会議録について

○会長　では、今日の議事を進めさせていただきます。

まず、今日の議題はその他を含めまして 3 議題ございます。

まず、最初の議題、第 3 回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会の前回の会議

録について事務局から説明していただきます。

お願いします。

- 事務局 まず、説明の前に、この会議録なんですけれども、以前開催通知を送付す際に会議録も送ってほしいというご要望がございまして、そうさせていただきますということだったのですが、今回誠に申し訳ございません。案内等お送りする際に、会議録の添付が漏れてしまっておりました。誠に申し訳ございません。

それでは、その 3 回目の会議について、簡単にですが振り返りのほうさせていただきます。

前回の会議につきましては、主な内容としましてアンケートの内容をご検討いただきました。そのアンケート案を作る際に事前に皆様方からご意見をいただいたり、会議当日にご意見をいただいております、そのいただいたご意見をもとにアンケートの最終案を作成させていただきました。その最終案を皆様方のご自宅のほうに郵送でお送りさせていただきます、内容をご確認いただいたところでございます。

その際に、特にご意見等私どものほうにはございませんでしたので、その最終案をご承認いただいたということで、その最終案をもってアンケート調査のほうを実施させていただきました。そのアンケート案につきましては後程ご報告させていただくようになります。

それで、またこの会議録につきましては後日でも結構ですのでお目通しいただいて、何か内容等訂正などございましたら事務局のほうにご連絡いただけましたらと思います。

簡単ですが第 3 回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会会議録の説明のほうは以上となります。

- 会長 ありがとうございます。

ただ今議事録、会議録につきまして説明ありましたけれども、ご意見あるいは私はこんなこと言ってなかったというようなことございましたらご指摘ください。

よろしいでしょうか。

では、この議事録をお認めいただいたということで進めさせていただきます。

◎「学校のあり方に関するアンケート調査結果」について

- 会長 では、次の議題に移ります。

今日の一番重要な議題ですけれども、議題 (2)「学校のあり方に関するアンケート調査結果」、保護者用・市民用についてです。

委員様からご意見やご質問をいただき、事務局で調整を行いアンケートを作成し、対象者の皆さんに配布し回答をいただき調査結果を求めました。

アンケート調査結果については事務局より説明していただきます。よろしくお願ひします。

○事務局 昨年度にご検討いただいたアンケートを今年の 5 月に配布して調査を実施いたしました。回収したアンケートの集計作業については株式会社サーベイリサーチセンター様にご協力いただき、その調査報告書が完成しております。

本日、集計作業をご担当いただいたマーケティング・リサーチ課の安岡様より報告内容についてご説明いただきます。

それでは、安岡様よろしくお願ひいたします。

○株式会社サーベイリサーチセンター 今ご紹介にあずかりました株式会社サーベイリサーチセンターの安岡と申します。

今回、学校のあり方に関するアンケート調査の集計及び報告書作成を担当させていただきましたので、そのご報告をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

恐れ入りますが着席させていただきます。

それでは、アンケートの調査結果について報告をさせていただきます。

今回は、市民調査と保護者調査の 2 種類を実施させていただきましたので、報告書もお手元に 2 つあるかと思ひます。

質問内容につきましては、保護者調査・市民調査ともほとんど同じとなっております、市立の小学校・中学校の適正な規模ですね。学級数ですとか 1 学級の人数についてなどと、後は今後の適正な配置というところで、学校数とか通学区域についてどのようにしていくかというところのご意見をお伺ひしたというような形になっておりまして、それぞれ保護者の方の目線と市民の方の目線、それぞれからの意見を聴取させていただいたという形になっております。

なお、今回使用させていただきましたアンケートにつきましては、各報告書の一番後ろに付録として添付しておりますので、必要に応じてご覧いただければと思ひます。

それでは早速ですが、中身のご説明のほうに入っていきたいと思ひます。

まずは、市民調査のほうからご説明をさせていただきますので、そちらのほうの報告書をお手元にご用意ください。

では、まず 4 ページをご覧ください。

4 ページにつきましては、本調査の概要についてご説明しております。

その 2 番の調査対象及び調査方法というところなんですけれども、今回住民基本台帳より抽出いたしました 20 歳以上の市民の方にアンケートを郵送にて配布し、郵送で回収させていただきました。配布数につきましては 1,500 枚配布しておりまして、有効回収数が 568 件、有効回収率が 37.9%となっております。

なお、こういった市民意識調査を行いますと、だいたい回収率が 30%台になることが多いですので、今回も期待したとおりの回収率が得られたのかなと思ひております。

また、回収数 568 件ですが統計的な見地から申しますと、だいたい 400 サンプル程度

あれば統計的に意味のある集計分析ができると言われておりますので、そういった意味でも特にこの回収数について問題ない回収が得られたと思っております。

以上が調査の概要になっております。

その後、5ページ・6ページなんですけれども、こちらは回答者の方の基本情報をアンケート内にてお聞きさせていただきました。

こちらにつきましては詳しい説明については割愛させていただきますけれども、このような属性の方にお答えいただいたということを念頭に置いて結果のご報告を進めてまいります。

また、属性といたしましては、お住まいの小学校区、居住地、性別、それから年代、中学生以下の同居家族についてお伺いをしております。

それでは、7ページのほうに移っていただきまして、ここから調査結果のご報告に移ってまいります。

まずは、このアンケートの中で市立小学校の適正な規模ですとか、あるいは通学距離についてお伺いいたしました。

まず、小学校の通学距離について、通学可能範囲と思われる限界の距離というのをお答えいただきました。

その結果、通学可能範囲というのは2km以内あるいは3km以内と考えている方が全体の6割以上を占めている結果となっております。そのため、だいたい2、3kmと考えてらっしゃる方が多いという結果となっております。

また、ちょっとこのグラフについてご説明をさせていただきたいんですけれども、コメントの下に図表1、小学校の通学距離についてと書いてありまして、その下にグラフがあるかと思えます。こちらはいくつかグラフが並んでおりますが、まず1番上が全体集計になっておりまして、その下からは、アンケートでお聞きいたしました属性に基づいて属性別の集計を行っております。性別ですとか年代別あるいは旧町区分、それから同居の子供の有無といったところで集計をさせていただいております。ここでもし何か傾向の違いというのが見られた場合はご説明に加えさせていただきたいと思えます。

今回この通学可能範囲につきましては、概ねどの属性も同じような傾向となっております。だいたい2kmとか3kmとお答えいただいた方が多いという結果となっております。

では、続きまして8ページにまいります。

続きまして、小学校の1学年あたりの学級数について適正と思われる学級数をお聞きしております。

こちらで最も多かったのは、2学級と答えた方で半数以上を占めておりました。次いで、3学級以上となっております。属性別に見ても概ね2学級とか3学級以上、こういったところをお答えいただいた方が多いという結果となっております。

続きまして9ページですけれども、今度は先程の1学年あたりの学級数で選んだ回答

の理由として当てはまるものをお答えいただいております。こちらは複数回答になっております。

全体で見ますと、グラフを見ていただくと分かりますように、クラス替えにより人間関係に変化を与えることができるや、様々な個性や考え方を持つ友達とふれあえる。こういった項目が理由として割合が高くなってまいりました。

但し、こちらにつきましては、恐らく前問で選んでいただいた 1 学年あたりの学級数ごとに回答を整理したほうが良いかと思われましたので、次の 10 ページにそのお答えを整理させていただきます。

こちらの表は、属性別に上位 3 位までの選択肢というのをパーセンテージで表示をさせていただきます。

こちらの一番下の学級数別というところですが、こちらに選んでいただいた学級数別の集計をしております。こちらを見ていただきますと、一番多かったのが 2 学級で、やはりクラス替えにより人間関係に変化を与えることができるといったお答えですとか、様々な個性や考え方を持つ友達とふれあえるというところで、2 学級程度あればクラス替えもできますし人数もある程度要るであろうと想定されて、色々な方、友達とふれあえるというところをメリットとして挙げられている方が多かったです。

3 学級以上につきましては概ね 1 位と 2 位につきましては同じような答えが並んでいるんですけれども、第 3 位につきましては、学校全体に 3 学級以上あると活気があって学年での取り組みが盛大にできるのではないかとといったようなお答えが上げられてまいりました。

なお、複式学級と 1 学級についても同じように答えを羅列しておりますが、すみませんちょっと 1 点ご注意くださいのが、この複式学級とか 1 学級の下に $n=15$ とか $n=29$ というものが書いてあるかと思えます。

この n というのは、答えていただいた回答者の方なんですけれども、これが少ない場合は 1 人の方の回答でパーセンテージが大きく変わってしまいますので、ちょっと統計的に考えて参考程度と考えていただくことが必要な場合がございます。

一般的に n が 30 を下回ると、その結果につきましては参考程度として捉えていただくという視点が必要になってくると言われておりますので、複式学級と 1 学級につきましてはこのような回答が得られておりますが、統計的な見地からいいますと参考程度としてお考えいただければと思います。

他の集計につきましても、もし n が 30 を下回っているものがあればそのようにお考えいただければと思います。

続きまして 12 ページにいただきまして、小学校 1 学級当たりの児童数についてお伺いしております。

こちらにつきましては、適正な人数として 21 から 30 人とお答えいただいた方の割合が圧倒的に多くて、この人数が良いと考えていらっしゃる方が多かったという結果になっ

ております。属性別で見ましても、全ての属性でやはり 21 から 30 人が一番高くなって
おります。

続きまして 13 ページですけれども、今度は今選んでいただいた小学校 1 学級当たりの
人数を選んだ理由についてお伺いしております。

こちららも全体の集計で見いただきますと、児童一人ひとりに目が届きやすく丁寧な
指導が行いやすいや、集団内において色々な役割分担を経験できる。こういったお答えが
多くなっておりますが、こちららも前問で選んでいただいた 1 学級当たりの人数別にお答
えを整理したほうが良いと思いましたので、次の 14 ページに表形式で整理をさせていた
だいております。

こちららを見ていただきますと、一番多かったのは 21 から 30 人だったんですけれども、
これを選んだ理由といたしましては、児童一人ひとりに目が届きやすく丁寧な指導が行
いやすい。それから集団内において色々な役割分担を経験できる。または学級内で色々な
友達づきあいができる。こういったところを挙げている方が多くおりましたので、この 21
から 30 人ぐらいの規模であれば、児童一人ひとりに目が届くぐらいの人数でありながら、
ある程度人数もいますので色々な友達づきあいができる。こういったところを考えられ
て選ばれた方が多かったのかなという結果が出ておりました。

以上が、市立小学校についての結果となっております。

続く 16 ページからは、市立中学校についてお伺いしております。

市立中学校につきましても小学校と同じように適正な規模あるいは通学の可能範囲に
ついてお伺いしております。

まず、通学可能な範囲をお聞きしておりますが、こちらら 6km 以内もしくは 4km 以
内と考える人が比較的多く、この 2 つのお答えで約 8 割程度占めておりました。属性別
に見ましても、6km が一番なのか 4km が一番なのかみたいなどの違いはあるんです
けれども、概ねやはりこの 2 つの選択肢を書かれている方が多くおりましたので、この
4km 以内、6km 以内、この辺りが中学校の通学可能範囲と思われているという結果でご
ざいました。

続きまして 17 ページですけれども、今度は中学校 1 学年当たりの学級数について適正
な規模をお聞きしております。

こちららを見ますと、一番多かったのは 4 学級以上と答えられた方です。全体の集計で
見ますとこれが半数を超えていました。続きまして、2 から 3 学級という結果になってお
りました。属性別で見ますと、少し傾向の違いが見られましたのが、この旧町区分のとこ
ろで、ここでは那賀、桃山、この辺りでは 4 学級ではなく 2、3 学級の割合が大幅に高く
なっておりました。逆にそれ以外の町につきましては 4 学級が多いという形になってお
りました。

続く 18 ページにつきましては、先程 1 学年当たりの学級数で選んだ回答の理由として
当てはまるものをお答えいただいております。

全体集計といたしましては、クラス替えによって人間関係に変化を与えることができる。様々な個性や考え方を持つ友達とふれあえる。こういったところのお答えの比率が高くなっていました。

また、20 ページにいていただきますと、先程の前問で選んでいただいた学級数別で答えを整理させていただきます。

こちらもちよっと複式学級と 1 学級のほうはサンプルサイズが小さいですので参考程度として捉えていただきまして、2、3 学級と 4 学級以上に主に着目して見ていきますと、2、3 学級と 4 学級、1 位と 2 位につきましてはお答えの並びが一緒になっております。3 番目に高かったものといまして、2、3 学級であれば生徒一人ひとりに目が届きやすく丁寧な指導が行いやすいのではないかとというようなお答えと、後 4 学級以上になりますとやはり学校全体に活気があって学年での取り組みが盛大にできる。こういったところを理由として挙げられている方が多くいらっしゃいました。

続きまして 21 ページに移ってまいります、今度は中学校 1 学級当たりの生徒数についてお伺いしております。

生徒数につきましては、こちらは小学校とほぼ同じ傾向が出ておりましたが、やはり 21 から 30 人の割合というのが他を引き離して最も高くなっていました。各属性別に見てもこの傾向は変わりませんでした。

続く 22 ページですが、先程の中学校 1 学級当たりの人数で選んだ回答の理由としてはまるものをお答えいただいております。こちらにつきましては全体の集計で見ますと、集団内において色々な役割分担を経験できる。生徒一人ひとりに目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい。こういったところが上位に挙げられておりました。

こちらにつきましても 24 ページの前問でお答えいただきました学級人数別で答えを整理させていただきます。

一番多かったのは小学校と一緒に 21 から 30 人だったんですけども、やはりこの中学校でも選んだ方のお答えとしては生徒一人ひとりに目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい。且つ、集団内において色々な役割分担を経験できる。学級内で色々な友達づきあいができる。こういったところが挙げられておりましたので、そのバランスの良さといえますか、そういったところがこの 21 から 30 人の比率の高さにつながっているのではないかと考えられます。

以上が中学校のほうの適正な規模についてのアンケート結果となります。

続きまして、26 ページからは市立学校の今後の適正な規模・配置についてお伺いさせていただきます。

問 15 の設問文のように、将来児童・生徒数が少なくなることが予想されますが、これからの紀の川市の小中学校のより良い教育環境の確保等のために、どちらを選んだほうがよいですかというところで、現在の学校の位置とか通学区域・学校数を維持するほうがよいか、もしくは検討し直すほうがよいかというのをどちらかで選んでいただきました。

その結果、維持するほうがよいが 51.6%、検討するほうがよいが 47.7%。維持するほうがよいと答えた方のほうが 3.9 ポイントほど多いという結果になっていました。

但し、この比率を見ていただきますと、51%対 47%ですのでそこまで差がなく、概ね半々程度という形になっております。ですので、市民調査についてはこの維持と検討については意見が割れたなという結果が出ておりました。

27 ページにグラフがいつてしまってるんですけども、各属性別で見ても概ね同じような結果が出ておりますが、しいて言うのであれば、年代別の 80 代以上あるいは旧町区分の粉河と那賀、この辺りについては学校数等を検討するほうがよいと答えになった方のほうが比率が高くなっております。

こういった形でこのような数字が出ていたんですけども、次のページ以降からはその検討をしたほうがよいと答えた方と維持したほうがよいと答えた方、それぞれに分かれて設問をお聞きさせていただいた形になっております。

28 ページに行っていただきますと、学校の位置、通学区域、学校数、検討するほうがよいと答えた方に、今後、学校の規模や配置の対策としてどういった方法が適切だと思いますかというふうにお聞きいたしました。

いくつか選択肢を用意いたしましたが、最も高かったのは近隣の学校と統合するが 42.1%。このお答えが最も多かったです。また、2 番目に高いものを見ていただきますと、近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校を新設するというふうになっておまして、いずれにしても学校を統合させるというようなご意見が多くなっておりました。こちらについては、属性別に見ましても近隣の学校と統合するの割合が高くなっておりました。

続きまして、31 ページですけども、今度は問 17 で先程と同じように検討するほうがよいと答えた方に、将来の学校の再編を検討していく際に特に重要と考えることは何だと思いますかという形でご意見をお伺いしました。

その結果、最も高かったのは児童・生徒数や教職員のバランスがとれた学校規模や通学区域編成に配慮すること。これが最も高かったんですけども、それと同じくらい比率が高かったのが通学手段について、児童・生徒の負担にならないよう配慮すること。このご意見についても 1 番目と同じぐらいの比率になっておりました。ですので、特にこの 2 点について市民の方は重要と考えていらっしゃるような結果が出ておりました。

続きまして、34 ページに移ってまいります。

34 ページにつきましては先程の問 15 で学校数等々維持するほうがよいと答えた方にその理由をお伺いしました。

いくつか選択肢を用意させていただきましたが、結果としてはやはり児童・生徒が遠距離を通学するのが大変であり、登下校が心配だからというところの比率が高くなっておりました。次いで高いのは、地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから。この選択肢がきているんですけども、こちらが 46.1%であるのに対し、

児童・生徒が・・・の選択肢につきましては74.4%となっておりますので、やはりこの登下校についての心配というのが一番大きな理由であると考えられます。

以上が学校の配置のご質問になります。

最後37ページなんですけれども、こちらはちょっとトピック的に今後の一案といたしまして義務教育学校の設置についての設問をお聞きしています。

和歌山市に義務教育学校が設置されていることについてどのように思いますかとお聞きしているんですけれども、こちらの選択肢といたしましては、よい、どちらかといえばよい、どちらともいえない、どちらかといえばよくない、よくない、分からないだったんですけれども。よいとどちらかといえばよい、この2つを併せたいわゆるよいと考えた方たちが47.2%となっております。他方、よくないと答えた方が4.2%でしたので、よいと答えた方が大幅に上回っている形となります。

但し、38ページのグラフを見ていただきますと、紫色の分からないと答えた方、こちらがこの設問に結構多くて、全体で見ますと2割ほど見られます。

ですので、まだ義務教育学校について恐らくあまりよく分かっていない方というのも多数いらっしゃるかと思いますので、こういった義務教育学校の設置の際には、まずはこの義務教育学校が何なのかというところの認知度を上げる、ご理解いただく、そういったところから始めていく必要があるというような結果になっているかと思います。

以上で、市民調査の報告とさせていただきます。

続きまして、保護者調査のほうなんですけれども、こちらにつきましてご説明をさせていただきます。

概ね市民調査のほうと同じ設問となっておりますので、市民調査の傾向と比較してどうだったかっていうところも併せてお伝えさせていただきたいと思います。

まずは4ページをご覧ください。4ページは、調査概要となっております。

こちらは、2番の調査対象及び調査方法を見ていただきますと、紀の川市内の学校・保育園等に通う小学生までの子どもを持つ保護者の方に、各学校と保育園を通して配布し回収をいたしました。配布数が2,873件に対して、回収数が2,489件。回収率が86.6%というふうになっております。学校・園を通して配布させていただいたこともありまして、非常に高い回収率となっております。

5ページと6ページにつきましては、先程と同じように回答者の属性について示しておりますので、このような属性の方にお答えいただいたという形になっております。

こちらの詳しいご説明については割愛させていただきまして、7ページから調査の結果についてご報告したいと思います。

まず、市立小学校についてなんですけれども、小学校の通学距離についてお伺いしております。

こちらどの程度までが通学可能かと思われるかという問いに対して、2km以内、3km以内と考える人が多く、この2つで約6割を占めておりました。こちらは、概ね市民調

査と同じような結果となっております。また、各属性について見ても似たような傾向が出ているという形になっております。

続きまして 8 ページですけれども、今度は小学校 1 学年当たりの学級数についてお伺いしております。

こちらにつきましては、学級数は 2 学級と答えた方が全体では 61.3%と 6 割以上を占めておりまして、この比率が一番高くなっております。続いて 3 学級以上、1 学級、複式学級の順となっております。属性別に見ましても、ほとんどの属性で 2 学級の割合が最も高くなっています。

但し、旧町区分で見ますと少し傾向に差が見られまして、一番上の打田では 3 学級以上が 51.3%と半数以上を占めておりました。また、粉河や那賀では 1 学級がそれぞれ 18.3%、17.3%と 2 割弱程度見られまして、この辺りはちょっとその居住地によってやや傾向の差が見られた形になっています。

続きまして 9 ページですけれども、前問の小学校 1 学年当たりの学級数で選んだ回答の理由として当てはまるものをお答えいただいております。

全体の集計で見ますと、多かったのはクラス替えにより人間関係に変化を与えることができる。児童一人ひとりに目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい。こういったところの比率が高くなっておりました。こちらも先程市民の調査と同様に、前問でお答えいただきました学級数別ごとに回答を整理しておりますので、10 ページをご覧ください。

お答えが多かったのが 2 学級あるいは 3 学級以上だったのですけれども、こちら 2 学級・3 学級以上ともにやはり複数学級ありますと、クラス替えにより人間関係に変化を与えることができる。こういったところが、一番メリットとして挙げられている回答者の方が多くなっておりました。

続きまして 12 ページに移ってまいりまして、今度は小学校 1 学級当たりの児童数についてお伺いしております。

こちらは 21 から 30 人の割合というのがやはり多くなっておりまして、これは市民調査と同様の結果となっております。属性別で見ましても、ほとんど 21 から 30 の比率が最も高くなっているんですけれども、旧町区分で見いただきますと、粉河とか那賀この辺りは一番多いのは 21 から 30 人ですけれども、一方でピンクのグラフ部分の 11 から 20 人の割合というのも比較的高くなっておりまして、この辺りのお住まいの方は、比較的少人数をご希望してらっしゃる方というのも多くなっておりました。

続きまして 13 ページですけれども、こちらは今しがたお答えいただきました 1 学級当たりの人数で選んだ回答の理由として当てはまるもの、これをお答えいただいております。

こちらも全体集計ではこのグラフのとおりになっているのですけれども、14 ページのほうで選んでいただいた学級人数別。前問で選んでいただいた学級人数別のお答えを整理しております。

14 ページの表の一番下をご覧ください。

こちらにつきましては、一番多かったのが 21 から 30 人というところですが、やはり市民調査のほうと理由が似通っておりまして、21 から 30 人であれば児童一人ひとりに目が届きやすく、且つ色々な役割分担を経験したり友達づきあいができる。こういったところを理由にあげていらっしゃる方が多くなっておりまして。

以上が、市立小学校についてのお答えとなります。

16 ページからは市立中学校についてお答えをいただいております。

まずは、こちら通学距離についてお答えいただいておりますが、こちらも 4km 以内、6km 以内と考える人が約 7 割を占めておりまして、こちらにつきましては市民調査とだいたい同じような形になっております。ですので、やはり 4km とか 6km 以内、この辺りと考える方が多いという結果になっております。

続きまして 18 ページですけれども、今度は中学校 1 学年当たりの学級数についてお伺いしておりますが、こちらにつきましても一番多かったのは 4 学級以上。次いで 2 から 3 学級ということで、こちらも市民調査と同様の傾向が出ております。属性別に見た時ですけれども、こちらは特に旧町区分、ここの居住地別で少し傾向に差が見られまして、例えば、那賀や桃山こういったところでは、2、3 学級がよいと考えられる方が結構多くて 7 割以上占めている結果になっています。逆に打田であるとか貴志川この辺りは、4 学級以上とお答えになる方が 6 割から 7 割程度ということで優勢となっております。ですので、この学級数につきましては居住地で少し傾向にばらつきが見られたという形になっております。

それから次いで 19 ページ。こちらにつきましてはまた 1 学年当たりの学級数で選んだ回答の理由として当てはまるものをお答えいただいております。

こちらにつきましても全体の回答としてはグラフのとおりとなっております、次の 20 ページで、前問でお答えいただきました学級数別での答えをまとめております。

こちらにつきましても今までの設問と同じような傾向が出ておりますが、やはり 2、3 学級ですとか 4 学級以上になると、クラス替えができるというところ。ここが一番のメリットと考えていらっしゃる方が多いという結果になっております。

続きまして 22 ページですけれども、今度は中学校 1 学級当たりの生徒数についてお伺いしております。

こちらにつきましては、こちらも 21 から 30 人の割合がやはり多くなっておりまして、小学校の人数でありますとかあるいは市民調査、これと同様の傾向となっております。また、属性別に見ても概ね同様の傾向が見られています。

それから 23 ページですけれども、こちら前問で答えていただいた中学校 1 学級当たりの人数で選んだ理由として当てはまるものをお答えくださいというところ。こちらも全体の集計につきましては、このようなグラフのような形となっております、24 ページ前問で選んでいただいた学級人数別の答えをまとめております。

こちらでも 21 から 30 人というのが最も多いお答えだったのですけれども、やはり生徒一人ひとりに目が届きやすく丁寧な指導が行いやすいというところが一番ではありますものの、集団内において色々な役割り分担を経験できる。こういったところもメリットとして挙げられている方が多くなっておりました。

以上が、市立中学校についての規模の設問となっております。

26 ページからは、今度は市立学校の今後の適正な規模や配置についてお伺いしております。

市民調査と同じく今後の教育環境を考えた時に、現在の学校の位置、通学区域、学校数を維持するほうがよいか、もしくは検討するほうがいいのかというのをお聞きしました。

その結果、維持するほうがよいが 54.6%、検討するほうがよいが 43.8%になっておりまして、こちらは維持するほうがよいと答えられた方が、検討するほうがよいを 10.8 ポイント程度上回る結果となっております。

ですので、先程市民のほうでは結果としては割れていたのですが、保護者についてはやや維持するほうがよいのほうで、お答えとしては比率が高いという結果になっております。属性別についても概ね同様の結果が見られますが、27 ページのグラフを見ていただきますと、旧町区分の那賀につきましては学校数を検討するほうがよいとお答えになった方が、維持するほうがよいと答えた方を少し上回る結果になっております。ただ、全体の傾向としてはやはり維持したほうがよいの比率がやや高くなっておりました。

次に 28 ページですけれども、検討するほうがよいと答えた方に、今後学校規模や配置の対策としてどのような方法が適切かと思えますかということをお伺いしております。

お聞きした結果一番高かったのは、近隣の学校と統合するが 42.2%となっております。こちらは市民調査と同じ結果となっております。次に続いているのが、通学区域の弾力化を行うことで、こちらでもほぼ統合すると同じ程度の比率となっております。

こちらは市民のほうでは 24.7%で 3 位になっておりましたので、保護者の方は統合すると同じくらい特定の区域について、隣接する通学区域からの通学を認めるなど、そういった采配を求めてらっしゃる方というのも一定数いらっしゃるという形になっておりました。

続きまして 31 ページですけれども、こちらにつきましても学校数を検討する方がよいと答えた方に、将来学校の再編を検討する際に特に重要と考えることは何ですかというふうにお聞きしました。

その結果、保護者の方で最も多かったのは、通学手段について児童・生徒の負担にならないよう配慮すること。それから、次いで児童・生徒に不安や戸惑いが出ないように配慮すること。この答えが 1 番目と 2 番目に多くなっておりました。一方で市民調査のほうでは一番多かったのが、児童・生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮することのお答えが市民の方では一番多くなっておりましたので、こちらの保護者調査のほうではやはり児童・生徒の負担にならなかつたり戸惑いが出ないように配

慮すること、こういったことが特に求められているという結果が出ておりました。

続きまして34ページですけれども、今度は現在の学校数ですとか通学区域、こういったものを維持するほうが良いと答えた方に対して、その理由として当てはまるものをお答えくださいという形になっています。

こちらにつきましては、児童・生徒が遠距離を通学するのは大変であり登下校が心配だから。ここが83.9%で特に高くなっておりました。ですので、やはり市民調査と一緒になんですけれども、ここの登下校の部分、ここが一番維持したほうが良いという方の大きな理由の一つになっていると考えることができます。属性別で見てもほぼ同じような傾向となっております。

最後、37ページですけれども、最後にこちら保護者調査のほうでも、義務教育学校の設置についてお伺いしております。

こちらと同じ選択肢で聞いておりますが、良いと答えた方が45.9%で、よくないを大幅に上回っております。基本的には設置についてはポジティブに捉えていただいている方が多いという結果となっております。但し、こちらについても38ページのグラフを見ていただきますと、紫の分からないというものが多く29.8%、3割程度を占めておりますので、やはりこういったところのまだご理解と申しますか、こういったところを進めていく必要はあるかと思えます。

以上が保護者調査の結果となります。

市民調査と保護者調査をまとめますと、概ね市立小学校や中学校の通学可能範囲ですとか規模、こちらについては同じような傾向が出ておりました。

また、今後の学校の配置。数とかを検討するのか、維持するのか。こういったところに関しては市民調査はほぼほぼ同じ程度のお答えとなっておりますが、保護者調査のほうはやや維持するというお答えが高くなっておりました。その理由としては、やはり登下校、児童・生徒の通学や登下校に関する心配というのが最も大きな理由となっておりますので、今後検討するにあたりましては、やはりこの辺りというのを、まず考えていく必要があるのではないかと申すような結果となっております。

以上、長々とお時間いただきまして申し訳ございませんが、調査結果の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

○会長　ありがとうございました。

詳細な解析等データ集めていただきまして、なるほどと思うところもありますし、うーんと思うところも色々おありかと思えますけれども、ご意見あるいはご感想あるいはご不明な点等ございましたらご発言いただきたいと思います。

どうぞご発言お願いいたします。

最後に、まとめてもらったんだけど、市民の方のご意見と保護者の方のご意見のここが圧倒的に違うところはありませんか。

○株式会社サバティセンター　全体集計でいくと実はあまり違うということではなくて、や

や差が出たかなっていうところではいきますと、やはり最後の今後の学校の位置とか通学区・学校数、この辺りの考えについて先程もちょっと申し上げましたように、やや保護者の方のほうはこのまま維持してほしいという考えの方が多くて、市民の方は同じぐらいになっていたというところ。ここが少し意識の差が出ていたかなと思います。

○会長 特にこの逆のデータ、反対の意見とかそういうのはなくて、だいたい傾向としては似たような傾向と解釈してよろしいんですかね。

○株式会社サベリサーチセンター はい。そのように解釈していただいて構いませんので。

ということで、やはり紀の川市全体としてはその同じような傾向があったということが分かったという形になります。

○会長 ありがとうございます。

ということで、市民の方あるいは保護者の方の意見はだいたいこういう方向に進んでるということがお分かりいただけたかと思います。

どうぞご発言をお願いします。

○A 委員 これ今聞かせていただいてもものすごく分かったんですけども、ちょっともやもや、何かあるのかなって今ちょっと頭の中考えたんですけども。

例えば、5 ページの表の中にこれはどちらでも同じ保護者でも市民でも 5 ページ。保護者で見ましようか。5 ページのほうのパーセント。学校のパーセントの中ですけども。今の旧那賀町、旧粉河町、旧貴志川町の中の結果で出てたんですけども。

例えば、粉河で見たら当然粉河小学校の人が多くなりますよね。でも、川原小学校のパーセントが小さい。これは川原小学校の保護者の意見はさてほんまにそうなのだろうかとか。後、那賀町で見ますと、当然名手小学校の実数が多くなります。でも、麻生津小学校とか上名手小学校少ないですけど、その意見はさてどうなってるのかというのが、小規模校の意見どうだったのかというのが、ちょっとこのアンケートの結果、分析でちょっと分からなかったのその辺どうだったのかというのはちょっと。

色んなこのままだと今のだったらやっぱり大きい学校の意見がすごく見えてると思うんです。そやからちっちゃい学校の保護者の意見、地域の意見はどうだったのかなというのが 1 回知りたいなと思ひまして、ちょっと今発言させていただいております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

事務局をお願いします。

○株式会社サベリサーチセンター ありがとうございます。

仰るとおり、やはりこう定量調査というところになりますと、どうしても規模が小さかったり人口が少なかったり、そういうところのお答えというのが相対的に少なくなってしまうので、パーセンテージという意味では含まれる割合は少なくなってしまう。

だからといって、この小学校ごとで分けてしまうと恐らくそのパーセンテージの少な

さからこう統計的に果たして見た時に、正しいのかというところがちょっと疑問が残りますので、ある程度この属性別の集計ではサンプルサイズを確保できつつ、地域の特性が見られるような分けかたにさしていただいているというところではあるんですけども。

但し、小規模校のご意見を知りたいというのはもっともなことかと思しますので、今はちょっとまだしてないんですけども、この小学校別での集計というのも可能ではございますので、統計的な見地というのにはちょっと配慮させていただいた上で、集計というのを後程お出しさせていただくことは可能でございますので。そういった形でまた追加で皆さまに見ていただけるような形でご提供できればと思っております。

○会長 よろしいですか。どうぞご議論をお続けください。

よろしいですか。

他にご意見お寄せください。

お願いします。

○B 委員 今のご説明で、住んでいる地域によって若干の数字が違ってたと思うんですけども。紀の川市の内容はほぼよく理解できたんですけども。

例えば、和歌山市内とか大阪の生徒数の多いところでのアンケートは、紀の川市と比較してどのような傾向になるのかなという疑問がちょっと生じたんですけど。

○会長 ありがとうございます。

そういう関連のデータお持ちでしょうか。あるいは他の市町もなさってると思うんですけども。

どうぞ。

○株式会社サベリサーチセンター ありがとうございます。

そう。この今回の調査につきましては、実は紀の川市様の課題であるとか現状というのを踏まえて作らせていただいたものになりますので、詳細な比較できるデータとして、ちょっと同じような設問でやったものがあるかということ、他の市とかでは無いかなという形なんですけれども。

但し、ちょっと和歌山市とかでやられているかは定かではないんですが、学校の適正規模適正配置については、アンケートされている自治体様がありますので。もし、そういった大規模な都市の結果を知りたいとか、あるいは同じくらいの規模の自治体でやってる場所があればその結果を知りたい。そういったご要望があれば、公表されているデータから探すことにはなりますけれども、こちらで探して示させていただくということは可能かと思っております。

○会長 よろしいですか。

じゃあ、そのように対応していただきます。

どうぞご意見お寄せください。

お願いします。

○C 委員 この結果色々聞いたら、統合する、しないがだいたい半々になってるんで。そ

やさかいに一番この中で一緒のやつがほしい 2 クラスが望ましいというのが一番多いんで。統合する、せんに関わらず、できたら人数少なくなっても 2 クラスがええんかなと思うんで。その辺考えていただいたらええかなと思います。

○会長 ありがとうございます。

事務局何かございますか。

お願いします。

○事務局 今、C 委員が言われた 2 クラス確保するとしたら、今の国の基準でいうと小学校 1 年生・2 年生は小学校の場合 1 年生・2 年生は 35 人、3 年生から 6 年生までは 40 人が国が決めてる基準なんです。

その 80 人いたら 1 年生で今 2 クラスは確実にできるわけです。でも、34 人しかいなかったら 1 クラスしかできへんのですが、それを 2 クラスに割ると先生の配当が国から来ないのでアンケートも今議論していただいているのも財政的なことは全く話には載せてないんですが、市の予算で教員を雇わなあかんということが起こってきます。その議論も後で話しようと思ってたんですが、これから具体的な検討に入っていただくなかで、市でそういう人を雇ってでもこの市民なり保護者の思いを遂げなさいという答申をいただくか。当然税金にも影響してくるのですが、そんな話もしていってもらわなあかんかも分かりません。

○会長 よろしいですか。

どうぞご議論ありましたらお進めください。

他にどうでしょうか。ご発言ください。

○事務局 すみません、ちょっとよろしいですか。

本日はこのアンケートの調査結果について説明させていただいて、次回から検討していただくのにあたって、こんな資料あったらええなっていうようなご意見いただければ、それまた次回までに用意しますんで。先程から言っていた感じのご意見いただければ有り難いんですけども。

○仁藤会長 お願いします。

○B 委員 今後小中一貫校の傾向が生徒数の減少について生じてくると思うんですけども、そのような小中一貫校について各々の考え方とか、その辺が参考になると思うんで。今後の傾向として必要かと。小中一貫校をどうしていくのか。

○会長 ありがとうございます。

よろしいですか、事務局。よろしくご対応ください。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○C 委員 この回答者の中で、先程も言うてたんやけど、小さい学校と大きい学校があるんで、そのパーセントでこれ一緒くたにされたら、大きいほうのパーセントになってしまうんで。そやさかいに、小さいところでもその小さいなりの何パーセントなんか。その細かい

く分けて小さいとこで何パー。そやから各学校で何パー、何パー入れてくれたら分かりやすいんかと。

○会長 ありがとうございます。

今のご意見にはデータ見れば解析できますよね。よろしくお願いします。

よろしいですか。

どうぞお願いします。

○D 委員 事務局のほうから現状の学級の定員数とかで、じゃあクラスを3クラスにするには、あるいは2クラスにするには何人が必要っていうのが出てきたかと思うんですけども。この回答されている方々っていうのは、そういうようなことというのは理解はほとんどないなかでのアンケートだと思います。

それだけではなくて、やはり統廃合の対象になりがちなところの保護者はすごく意識が高いでしょうけれども、そうではない学校区域の保護者にとっては、あまりそこには無関心なところもあるかと思います。

市のほうとしては、市全体を見て本当に一番子どもたちの教育にとって適してるのはどうかなっていうのを一生懸命考えながら、これから進めていっていただけるんだと思うんですけども。ただ、市民のこのアンケートの対象になった方々、あるいはそれ以外の方々の認識というのは、なかなか市の現状とこれからの将来の現状というのは、あまりまだまだ認識されてないと思うんです。

だから、そういうのを大変難しいことかも分かりませんが、広報して将来像を認知してもらった上での話をしていかないと、自分たちだけがこれ理解して進めたとしても、なかなかうまくいかないんじゃないかなと思っております。だから、如何に今の状況がどんなんであって、将来的にこんなになるっていう具体的な、あるいは地区別の人口の推移がどうなっていくのか。子どもたちの数の推移がどうなっていくのかとか。そういうのを分かりやすいような広報をどんどん流しながら、こういう議論を進めていかないと、本当の議論になっていかないんじゃないかなと。

最終的に、統合・廃校が当然避けられない部分が出てくると思うんですけども、その時の議論の時に、やはり市民の意識がそんだけ高まってないと混乱するばかりになってしまうと思うので、そこらのところどう広報していくか。自分たちもそれを考えながら議論していけないといけないなと思います。

ここのアンケートの結果でちょっと気になったのは、先程言われてたように義務教育学校の中身が分からないから分からないという回答が多いというのがあるんですが、そういう回答がないから分かってんのかというところとそうじゃないと思うん。

問15では、現状維持というような回答が多かったんですけども。でも、その前の問題、問11、12、13というそこらの問題では、児童数が10から20とか20から30とかっていうのがいい。クラス数は2クラスから3クラス、あるいは3クラス以上っていう、ここらがすごく多いんですよ。そういうのを今の紀の川市の現状で本当に現在の学校

と校区で維持できるのかっていう問題があまりそこらがつながってない回答だと思うんです。

だから、そこらも将来像を見ながらっていうのはなかなか分かってなかったら、そういう立場で見れないと思うん。現状の自分とあるいは自分が育ったその時の学校の環境でかなり意見が支配されてるんじゃないかなと思います。ちょっとこの回答見ててそんな感じがしたんです。

私は元々教員ですから、学校の児童の数とかあるいは色々なこんな先の大規模校であれ小規模校あれ持ってるんで、これはそう利点も欠点もあると思うんです。ここらのところも皆が理解できるように、広報してもなかなか見てもらえないかも分からないんですけども。でも努力はしていく必要があるし、それをすることで理解が得られて協力が得られるんじゃないかなと思っています。そういうためのこの会議だと思いますんで、私は教員経験した立場からですけども、皆さんは保護者とかあるいは孫をもっているとか、あるいは地域の現状とかを見ながら意見言えると思いますんで、そんなんを考慮しながらできるだけいい市にやっていたらなと思います。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

事務局お願いします。

○事務局 D 委員が言われたように、どこまでその市民に実情を理解してもらって、市民の当時者意識を持ってこの思いを反映してもらおうかっていうのはね、非常に難しいと思うんです。

今その保育園やった時のことを比較するのは悪いか分かんですけども、アンケートもせずに行行政ペースで進めていったっていうのもあって。今教育委員会としては市民と保護者のアンケートをして、できる限り今後パブリックコメントもしながら市民の意向を、もっと理解をしてもらいながら把握するっていうことに努めていこうと思ってるよとこなんですけども。完璧にというのはなかなか難しいと思います。

義務教育学校についても和歌山市で設置されているだけで、まだ和歌山県で他の市・町では設置してないので、そこら辺のメリット・デメリットも説明もできてないし、それで分からないという回答も多かったんかも分かりません。

後、これも後で話しようと思ってたんですけど、今のこの委員さんも旧町の単位で区長さんも出てきていただいて、旧町単位で通学区域が設定されています。学校統廃合しても、さっき大方の市民の意向としては 1 学年複数学級、1 学級は 21 から 30 っていう思いの強い人が多かったと思うんですが。旧町で統廃合してもそんな形にならない地域もあるんです。それを旧町超えて考えるかどうかっていうのも含めて今後検討していったのかなあかんというふうに思っています。

○会長 ありがとうございます。

よろしいですか。どうぞ議論を続けください。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

- B 委員 英語教育に関してね、ちょっとアンケートから外れて申し訳ないんですけども。

日本はヒアリング等かなり他の先進国に比べて遅れてるかも分からないんですけども、今後の英語教育に関してどのように進めていくか。

それからもう一つ、今コロナが蔓延してますけども、各企業ではテレワークがかなり進展して、今後分かりませんが更にそういう関係が講じていくんじゃないかと思うんですけども。学校教育に関してもテレレッスン、そのようなことが今後必要になるかも分かりませんと思うんですけども。討議するには広くて難しいと思うんですけども、その辺も参考になることがあれば出していただきたいと思います。

- 会長 事務局いかがでしょうか。

- 事務局 まず、英語教育ですけれども、小学校で昨年度から導入されております。3年生から外国語教育、5、6年生で英語科という形でしています。紀の川市においては中学校のOBの教員を外国語指導員という形で小学校のほうへ配置させていただいて、小中の英語の教育の連携等を図っております。これは市単で入れております。かなり機能してきましたので、当初3年の予定だったんですけども、できれば来年度以降も更に進んだ形でやっていきたいというふうに考えております。

それから、例年ALTも来ていただいていたんですけども、ちょうどコロナで現在人材が見つからずに、ここ2年については実施できていません。ただ、外国の方と触れ合うことも国際理解教育の中では大切ですので、できればALTも来年度、人数はちょっと減るかも分かりませんが導入していきたいと考えております。

それから、オンラインに関してですけれども、今年度から1人1台端末が入っています。現在のところまだ持ち帰りの環境というのは十分整っていませんので、この夏休み中に小学校1校で今現在実証実験中です。今後、家庭学習と学校の授業がこう連続する、教育のシームレス化というんですけども。そういうような授業、逆転授業ともいいですけども、家庭学習で個別で学んできたことを学校で対話的な学習の中で深めていくってというような、今後授業が大きく変わっていく可能性があります。

それから、よく懸念されているその一斉休校になった時どうするんよという話なんですけど、現時点で休校になった場合については、家庭でWi-Fiの電波が飛んでいる家についてはWi-Fiでオンラインができるかな。それが無理な家庭っていうのは少ないかと思えますので、その家庭については登校して学校の中で少ない人数の中で同じ授業ができるかなというふうには考えております。

できれば、来年度あたりから全校への持ち帰りができればなという検討を今進めているところです。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

そうしましたら色々ご意見いただきましてありがとうございました。また、お帰りになる途中あるいは明日にでも結構ですので、あれを言っとけば良かったとか、あるいはこういうデータがあったらもっと分かりやすくなるんだなというようなそういうことがありましたら、教育委員会の教育総務課のほうにご連絡いただけたらと思います。

よろしいでしょうか。

◎その他

○会長 そうしましたら、次その他ですけれども、今日の会議を通じまして何かご意見ございますか。

よろしいでしょうか。

それでは、その他無いようですので、事務局から何かありますか。

お願いします。

◎事務局 今色々ご意見いただいたなかでもお話をさせていただいたんですけども、今年度中にこの検討委員会で答申をいただくということで、D委員が言われたように、あんまりこう期限切って議論するのも如何なものかという意見もあるかも分かりませんが、どこかで区切って答申いただいて、教育委員会としてはその答申に基づいて基本計画を立てて、再度市民にパブリックコメントをこの計画で進めていきたいけどどうですかという意見をいただいて、その後地元説明というのにもある程度時間をかけて意見をまた聞かしてもらおうという機会を設けやないかなとは思っています。

そのなかで、この検討委員会は後4回ぐらいで答申をいただかなあかんっていうことで、今回のアンケートで市民の大まかな話ですけれども、1学年2クラス以上で1学年の人数は21から30。学校どうするんかという意見については現状維持せえよという意見、やっぱり通学区域変えて統廃合して変えていくべきやという意見も半々。市民は半々、保護者は10ポイントほど現状維持したほうがいいよというような意見があったなかで、事務局としては次回それを受けて検討していただけるような資料は用意するつもりでいるんですが、ちょっと今日のアンケート結果、色んな意見を聞いていただいたなかで、先程次長も言うてましたけど、こんな資料を用意して欲しいとか、お気づきの点があったら、次回9月の末頃予定していますので、それまでにご意見いただければ、検討していただける資料を作りたいと思いますので、ご意見いただければというふうに思います。

○会長 ありがとうございます。

ただ今事務局から説明があった手順で進めさせていただきます。

先程も申しましたけれども、本日いただきましたご意見以外にも何かありましたら連絡いただく。あるいは、次回までに色々の案をあたためておいて次回にお聞かせいただくことも可能かと思います。

色々皆さま方のご協力のもとでこの委員会を進めたいと思います。大変でしょうが紀の川市の子どもにより良い教育環境を提供するためにご協力をお願い申し上げます。

以上で今日の私の司会の任務は解かせていただきます。

事務局後はよろしく願いいたします。

◎閉会

○事務局 会長、議事進行ありがとうございました。

それでは、閉会にあたりまして副会長からご挨拶申し上げます。

○副会長 皆さまお疲れさまでした。

先程も長々と喋ってしまいましたが、やはり紀の川市の将来、それから子どもたちのために自分たちが集められてるんだと思います。しっかりとまた私たちも考えながら、後4回ですか。答申に向けてやっていくためには、やっぱり自分たちも理解、しっかりと現状を理解していかないといけないと思いますので、その点も考慮しながらまた進めていけたらなと思います。

今日は本当に足元の悪いなかっていうか、まだまだ雨が続くみたいですので心配なことも多いのですけれども、どうもありがとうございました。

○事務局 ありがとうございました。

委員の皆さまにおかれましては長時間ありがとうございました。

再度ご連絡いたします。

次回の検討委員会は9月末の開催を予定しております。よろしく願いいたします。また、正式な開催通知につきましては、いつもと同じく遅くても開催2週間前を目処に案内させていただきますので、またご予定のほうよろしく願います。

これをもちまして第4回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会を閉会いたします。

本日はありがとうございました。